

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4571600115		
法人名	社会福祉法人協同福祉会		
事業所名	グループホームくろしお		
所在地	宮崎県日南市南郷町中村乙7051番地111 (電話) 0987-64-3466		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年9月15日	評価確定日	平成21年10月30日

【情報提供票より】 (平成21年8月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要(平成21年8月24日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 87歳	最低 72歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人文誠会百瀬病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全職員が身につけている名札の裏に事業所独自の理念を記し、業務優先とならぬようにいつでも振り返ることができる取り組みが行われている。毎月のミーティングや利用者とかかわりの中で互いに確認し合える体制もある。事業所は職員が日常的に学ぶことを推進し、内・外部研修に参加できる機会がある。勤務年数によって変わるカリキュラムは職員の質の確保、向上に結びついている。家族が相談に来られた時から段階的な取り組みを行っている。自宅まで訪問し信頼関係構築のきっかけをつくり、その後、利用者本人や家族に見学に来てもらう。いきなり利用を開始するのではなく、繰り返し見学することも可能である。状況次第では家族にも宿泊してもらう等、利用者を大切に受け入れする姿勢がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や目的は理解されているが、評価で見出された課題に対し、改善計画シート等を活用した改善に向けての計画的かつ具体的な取り組みには至っていない。しかし、家族から出された意見や要望については、前向きに受け止める姿勢がある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で取り組み、今後取り組みたい課題を多く挙げていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	おおむね2か月に1回以上の開催との定めがある運営推進会議が、年2回程度しか開催されていない。現在の取り組みの評価についても報告・意見を傾聴する機会が少ない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望については、前向きに受け止めミーティング等で話し合った内容を含めファイルに保存し、生かしていこうとする姿勢がある。家族の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族の事について迅速に話し合う等の前向きな姿勢がある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の婦人会や民生委員・児童委員との交流、近隣住民との関係づくりが日常的に行われている。地域で行われる祭り等の行事にも積極的に参加している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域の中で「安心・安全・安定したサービス、信用・信頼・信念のあるサービスに努めます」を法人の基本理念としながら、より具現化した事業所独自の理念も作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が身につけている名札の裏に事業所独自の理念を記し、業務優先とならぬようにいつでも振り返ることができる取り組みが行われている。毎月のミーティングや利用者とのかわりの中で互いに確認し合える体制もある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の婦人会や民生委員・児童委員との交流、近隣住民との互いを気づかう関係づくりが日常的に行われている。地域で行われる祭り等の行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や目的は理解されているが、評価で見出された課題に対し、改善計画シート等を活用した改善に向けての計画的かつ具体的な取り組みには至っていない。	○	評価で見いだされた課題について、計画的かつ具体的な改善計画を立てての取り組みが、事業所の質の確保・向上につながることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年2回程度しか開催されていない。現在の取り組みの評価についても報告、意見を傾聴する機会が少ない。	○	基準省令を遵守した会議開催を執り行い、参加メンバーの人々から改善等に向けた率直な意見を引き出し、より一層のサービス向上につながる運営推進会議となることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2か月に1回ある市主催の包括会議に参加している。事業所の取り組みを報告（情報提供）して意見をもらう等、関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。金銭管理については、領収書を添付した金銭出納簿を定期的に報告し、確認サインをもらっている。その他、ホーム便りの発行や随時の電話連絡相談も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望については、前向きに受け止めミーティング等で話し合った内容を含め、ファイルに保存し生かしていこうとする姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は利用者、家族への信頼関係を築くためになじみの職員による対応が基本と考えている。異動や離職でやむを得ない場合は、利用者のダメージを防ぐ取り組みとして新しい職員や利用者が慣れるまで、管理者がサポートするシステムがある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、多くの職員が内・外部研修に参加できる機会がある。勤務年数によって変わるカリキュラムは職員の質の確保、向上に結びついている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に4回、県南地区で設けたグループホーム連絡協議会を通し同業者と交流する機会がある。また、日南市、串間市にある6つの事業所と勉強や交流できる場を定期的に設け、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が相談に来られた時から段階的な取り組みを行っている。自宅まで訪問し信頼関係構築のきっかけをつくり、その後、利用者本人や家族に見学に来てもらう。いきなり利用を開始するのではなく、繰り返し見学する事も可能である。状況次第では家族にも宿泊してもらう等、利用者を大切に受け入れする姿勢がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の得意分野で力を発揮してもらい、生活の技や生活文化の大切さを教えてもらっている。特に料理や、野菜作り、縫い物では利用者から支えてもらうことが多い。職員と利用者がともに支えあい信頼できる関係がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。介護を多く必要とする利用者だけに重点を置かず、自立度が高い利用者に対してもしっかりと向き合い本人の立場で考える体制がある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望に耳を傾けケアプランに反映している。職員は、毎月のミーティングの中で利用者の現状を確認し、互いが気づいている点や意見、要望を出し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に応じてカンファレンスを開催している。職員間で情報を確認し、本人や家族の要望を取り入れ現状に即した迅速な見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等の支援を日常的に行っている。家族が宿泊を希望する場合も柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望時にも対応している。主治医の説明や同意者の兼ね合いから家族同行を基本としているが、同行が不可能な時には職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者の考えから、重度者や終末期の利用者を受け入れる体制はない。また、本人や家族との早期からの話し合いも行われていない。終末期における指針もなく、利用者にかかわる職員や家族、医療機関と共有ができていない。	○	事業所として対応し得る最大のケアについて記した指針を基に、本人や家族に対しての説明が行われ、意思確認書や同意書等が活用されることを期待したい。また、本人や家族の意向を踏まえた関係者全員での話し合いが繰り返し行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	管理者は内部研修会やミーティングの折に利用者とのかわりを確認し、誇りやプライバシーを損ねる対応にならぬよう徹底した教育を行っている。利用者に対する声かけにも尊厳を重んじた姿がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや状態に配慮し、柔軟に対応している。職員は利用者のペースを守りながらさりげない支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じ、調理や盛りつけ、片づけを職員と一緒にしている。利用者は弁当を持参している職員と同じテーブルを囲み食事をゆっくりと楽しんでいる。職員は持参した弁当のみではなく、一緒に調理したおかずの味を共有する姿もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に4回を基本とし、利用者が希望する場合はいつでも入浴できる。入浴しない日は清拭で対応している。清潔を保持し利用者の習慣や好みをよく聴いて、相談しながら利用者個々にあった入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるように、本人らしさが発揮できる機会や役割を見つけ支援を行っている。本人の生活歴を生かし墓参りを計画的に行う等、継続的な支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域にある温泉へ出向く等、利用者にとってなじみ深い場所へ出向くことも積極的に行っている。地域の祭りやドライブ、海沿いにある道の駅に行くことは恒例となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所として委員会を立ち上げ、職員は鍵をかけることによる弊害を理解し、日々の鍵をかけないケアの実践につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災に関するマニュアルが整備され、年2回の総合防災訓練、毎月1回の避難訓練が実施されている。災害に備え繰り返し訓練することにより、職員も適切に対応できる力が備わっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有している。職員は、海沿いに暮らしていた利用者の食生活を踏まえ、さまざまな面から支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としており開放感がある。大きな窓からは畑や空を眺めることができ、座っている椅子からは台所を眺めることもできる等、活力を引き出しやすい環境となっている。不快な匂いや音も一切感じられず、落ち着ける空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前から使いなじんでいたタンスやテレビ、冷蔵庫が持ち込まれ利用者の居心地の良さに配慮している。		

※  は、重点項目。